

南小倉温故知新

❖～ 地域から学ぶ ～❖



北九州市は九州の北東端に位置し、関門海峡を挟んで本州の下関市と向かい合う。北九州市の北側は日本海（響灘）に、東側は瀬戸内海（周防灘）に面する。昭和38年に5市（門司・小倉・若松・八幡・戸畠）合併により誕生し、3大都市圏以外で初の政令指定都市となった。現在（2012.3.31）人口 972,932人、その中でも小倉は392,262人であり、古くは城下町、明治以降は軍都、戦後は北九州市の中核商業都市として発展してきた。



PICK UP the AREA “MINAMI-KOKURA”

共和会創立50周年にあたり当法人施設がある北九州市小倉北区、その中でも「南小倉」を中心に探検してみました。

共和会の未来に携わるものとして、今後何を考え行動していくべきか検討していきます。

江戸時代

城下町小倉～長崎街道の要所として～

関ヶ原の戦い後、小倉に細川忠興が入国し、1602年に小倉城が築城され城下町として栄えた。

木町は長崎街道への玄関口として古くから栄えた。細川藩お抱えの剣術指南役・佐々木小次郎の道場があり、《つばめ返し》を門弟達に教えていたといふ。



長崎街道の水飲み場《清水》 元材木置き場《木町》

明治～昭和時代

軍都小倉～陸軍造兵廠 職員住居として～



旧陸軍造兵廠跡
《大手町》

明治維新を迎えると、廃藩置県にそなえて小倉に鎮台（軍隊）が設置された。歩兵第十四連隊の発足とともに小倉は軍都の性格を帯びていき、1871年（明治4年）、廃藩置県により小倉県が誕生、小倉は県庁所在地となった。1900年（明治33年）には市制がひかれて小倉市となった。

時代が明治から大正へと移ると間もなく第一次世界大戦を迎えた。戦争景気を梃子にしながら北九州は重化学工業に特化した大工業地帯へと発展していった。



旧陸軍造兵廠工員宿舎跡《新高田町》 旧陸軍造兵廠の付属病院《弁天町》 山田弾薬庫跡地《熊谷町：現山田緑地》



造兵廠への輸送鉄道《原町》



山田弾薬庫までの専用線《清水バイパス》

昭和 戦後～現在 復興の拠点から高齢化が進む南小倉

1963年（昭和38年）、5市合併し北九州市小倉区は、「商都小倉」として発展していった。当時南小倉の木町は大変賑わっていた。現在の木町公園～ファミリーユサの裏手道～木町市場への道がメインストリートだったが、道路の拡張整備等により様相は変化した。熊谷町、南ヶ丘が新興住宅地として宅地造成され、ベビーブームとともに南小倉地域は急速に人口増加した。このため南小倉小学校、南ヶ丘小学校が次々に開校した。高校、大学も立ち並び今や南小倉駅は学生達の利用が多い。



木町市場《木町》



南小倉駅《JR 日豊本線》

一方、戦後65年の間に新興住宅地に移り住んだ人達の高齢化が始まった。当時賑わいをみせた木町近辺も高齢者の姿が目立つようになった。最盛期駅周辺には5軒のスーパーマーケットがあったが、現在は1軒のみとなった。マンション群も建ち並び、町内会としての機能が徐々に低下してきた。

バブルがはじけた頃か、賑わっていた南小倉駅周辺の飲食店街もいつの間にかシャッター街となっていた。



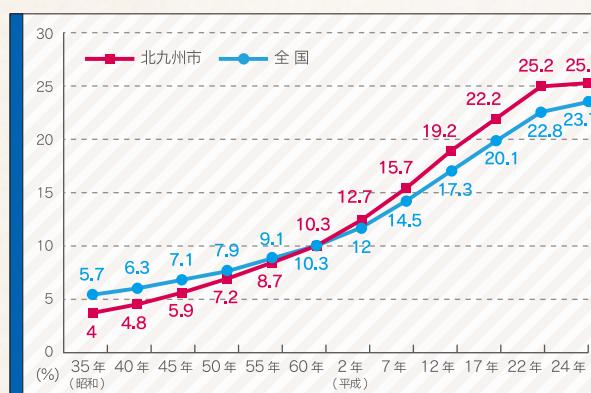
南小倉駅前の飲食街



スーパーとみやま《木町》

データから読み取れる地域高齢化の波

北九州市の高齢化率の変化 ※全国比較

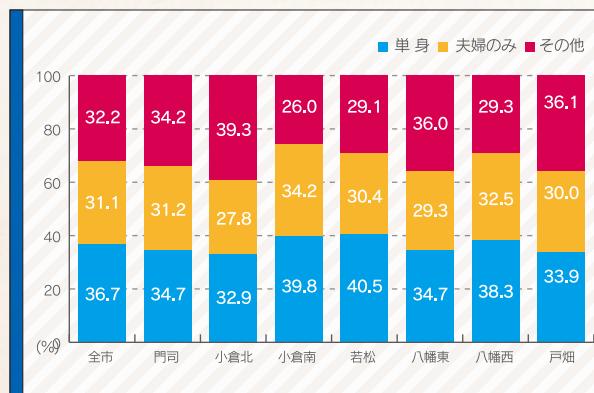


工業都市として栄えた北九州市は戦後日本の高度経済成長を支えてきた。昭和40年代の鉄冷えと共に若い世代が市外に流失し始めた。昭和60年代には北九州市の高齢化率が全国平均と並び、高齢化が進んでいる。

今や高齢化率 25.5%、全国平均 23.7%を大幅に超え、全国政令指定都市の中で最も高齢化が進む街となった。

出典 / 平成 22 年まで総務省「国勢調査」(平成 22 年 10 月 1 日現在)
平成 24 年数値は、北九州市住民基本台帳（平成 24 年 3 月 31 日現在）
全国数値は、総務省統計局推計人口（平成 24 年 4 月 1 日現在）

高齢者のいる世帯 ※行政区別



北九州市の高齢者世帯における単身世帯の占める割合が 32.2%に対し、小倉北区は 39.3%と非常に高い。

また、夫婦のみの世帯を含め 67%と「単身、夫婦のみ」の世帯が 7 区の中で最も多い。

出典 / 総務省「国勢調査」(平成 22 年 10 月 1 日現在)



職員による取材風景《木町市場にて》 2012 年 7 月

探検記まとめ

小倉は明治から太平洋戦争までの長きにわたり軍都としての役割を果たしてきた。私たち施設が位置する南小倉もその中心に位置し、小倉造兵廠跡、軍宿舎跡、山田弾薬庫跡（現山田緑地）、弾薬庫引き込み線等、当時の名残を残している。

現在、南小倉の事情をみると他地域と同様高齢化が進んでいる。近年不況の影響もあり、商店は軒並みシャッター街となった。独居、高齢者夫婦世帯が目立ちスーパーからの宅配サービス等が行われ、老人クラブによる見守り活動も強化されている。

高齢化が進む南小倉…今回「地域探検企画」ではこうした事情を踏まえ、高齢となつても住み慣れたわが街でその人らしく安全に生きていくため、地域全体でこれらの課題に取り組む必要性を再確認することができた。

これまで共和会活動は常に地域に根ざした考え方を基本としたが、さらに未来に向け地域でくらす人たちに視点をおいた事業展開の必要性を痛感した。

